

2026年3月19日

株式会社LIXIL



INAX MUSEUMS

INAXライブミュージアム企画展

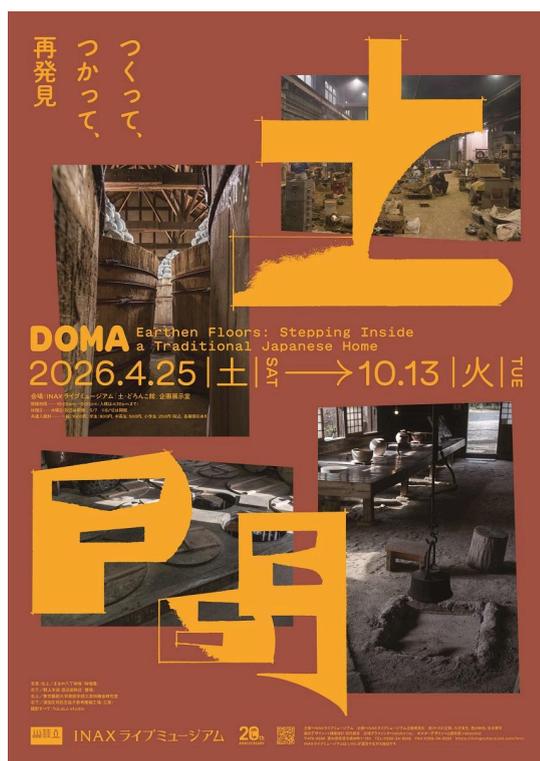
**土間 一つくって、つかって、再発見***Doma* - Earthen Floors : Stepping Inside a Traditional Japanese Home

【会期】 2026年4月25日(土)～10月13日(火)

【会場】 INAXライブミュージアム「土・どろんこ館」 企画展示室

【URL】 <https://livingculture.lixil.com/ilm/see/exhibit/doma/>

株式会社LIXIL（以下LIXIL）が運営する、土とやきものの魅力を伝える文化施設「INAXライブミュージアム」（所在地：愛知県常滑市）では、2026年4月25日（土）から10月13日（火）まで、企画展「土間一つくって、つかって、再発見」を開催します。グランドオープン20周年を記念して企画した本展では、昔ながらの土間（どま）の役割や、土の床「三和土（たたき）」のつくり方、道具、床見本などを写真や実物資料で紹介し、土間の魅力や奥深さを再発見します。



日本の住まいは、外と内のあいだに「土間」という豊かな余白をもっていました。屋内でありながら、土足でいられるこの空間では、人が集い、煙が立ちのぼり、手仕事の音が響く。そこは一つの舞台でもありました。土間は、外からの地続きの場として来客の応対に活用されるだけでなく、かつて主流であった土の床「三和土」は、保温、調湿、耐火、耐水、耐荷重などの機能が備わり、作業場や炊事場、道具や作物の保管場所など、さまざまなものづくりの場としても利用されてきました。近年は、暮らしのなかにおける土間の寛容さ、柔軟さが見直され、現代の建築においても再評価されています。本展では、味噌づくり、染め、鋳造、接客など、伝統的な活用例をとおして、土間が備えもつ機能にあらためて着目します。また三和土の製作工程や道具類を紹介するほか、素材の配合や仕上げによって表情が異なる床見本も展示します。さらに左官による磨き仕上げの土間床をつくり、実際にその質感を足裏で体感いただけます。これからの

住まいづくりのヒントにもなる、土間の魅力や奥深さを再発見していただければ幸いです。

\*画像はポスターイメージ

発行元

株式会社LIXIL (<http://www.lixil.com/jp>)

本社：東京都品川区西品川一丁目1番1号大崎ガーデンタワー24F

報道関係の方から：INAXライブミュージアム 担当 高橋・箕・竹内

TEL：0569-34-8282 e-mail：event.ilm@lixil.com

※このリリースは、LIXIL Newsroom (<https://newsroom.lixil.com/ja/>) でも発表しています。

**企画展 土間一つくって、つかって、再発見—****Doma - Earthen Floors : Stepping Inside a Traditional Japanese Home**

【会期】2026年4月25日（土）～10月13日（火）

【会場】INAXライブミュージアム「土・どろんこ館」企画展示室

〒479-8586 愛知県常滑市奥栄町1-130 TEL:0569-34-8282 FAX:0569-34-8283

【開館時間】10:00～17:00（入館は16:30まで）

【休館日】水曜日（祝日は開館）、5/7 ※8/12は開館

【観覧料】共通入館料にて観覧可（一般：1000円、学生：800円、中高生：500円、小学生：250円/税込、各種割引あり）

【主催】INAXライブミュージアム 【企画】INAXライブミュージアム企画委員会

【協力】川口正樹、久住有生、西川和也、松木憲司

【展示デザイン】+建築設計 田代朋彦、【会場グラフィック】kobito inc.

【URL】<https://livingculture.lixil.com/ilm/see/exhibit/doma/>



INAXライブミュージアムは、2026年にグランドオープン20周年を迎えます。これを記念して「ライブ！ライブ！ライブ！—この博物館は生きている」と銘打ち、皆さまへの感謝の気持ちを込め、本企画展をはじめ1年をとおして多彩な記念イベントを開催します。

**■ 見どころ****○土間の機能に着目**

土間の保温、調湿、耐火、耐汚、耐水、耐荷重などの機能に改めて着目し、活用例をとおして、空間の魅力をひも解きます。会場では、大きく引き伸ばした土間の写真が床面から立ち上がり、その場にいるような臨場感を演出しています。

**○土間床の構造と美しさを紹介**

土を叩くことで嵩（かさ）が約半分になる三和土の構造を、叩く前と後のスケルトン標本で披露します。また現役の左官職人が仕上げたバリエーション豊富な土間床見本を22点紹介します。素材の配合や仕上げによって異なる表情を間近でご鑑賞いただけます。

**○左官職人・久住有生（くすみなおき）氏による磨き仕上げの土間床**

1. 「土・どろんこ館」の版築壁やホールの「常滑大壁」、小あがりの三和土を手掛けた左官職人・久住有生氏による公開制作を行います。国内外から注目を集める久住氏がどのように土間床を仕上げるのか。下地づくりや磨きを目の前でご覧いただける貴重な機会です。※関連イベント参照
2. 完成した磨き仕上げの土間床に上がり、美しい光沢を味わいながらつるつるの質感を足裏で体感いただけます。本来、土間床は土足可能な場所ですが、「磨き仕上げ」は靴を脱いで上がる特別仕様です。（※裸足厳禁）

**○「土・どろんこ館」の企画展示室が、まさに土間空間**

会場となる展示室が土間であることをきっかけに企画された今展。奥の壁は土壁、床は半乾き時に表面をふき取って小石の粒を出す「洗い出し」の土間床です。土間空間に土間を展示するデザインになっています。

**■ 会場構成**

会場は「土間をつくる」「土間をつくる」の2部構成です。ものづくりにおける土間の伝統的な活用例を紹介する「土間をつくる」では、通り土間のような設えに迫力ある写真がずらりと並びます。続いて「土間をつくる」では、三和土のつくり方やその他の土間の仕上げを実物資料でご覧いただけます。最後に現代の新しい土間の事例を2件写真で紹介いたします。のれんをくぐって展示室に入ると、土間の風景が広がります。

## 【構成1】土間をつくる

土間は来客の応対だけでなく、さまざまなものづくりの場としても利用されてきました。土に石灰とにがりを入れて叩きしめる「三和土」は、かつては土間床の主流であり、保温、調湿、耐火、耐汚、耐水、耐荷重の機能を備え重宝されてきました。

会場では、土間の機能がどのように活かされているのかを、味噌づくり、染め、鋳造、調理などの活用例をとおして、使い手たちの言葉を交えながらその魅力をひも解きます。大きく引き伸ばした土間の写真が床面から立ち上がり、その場にいるような臨場感を演出します。



①



②



③



④

写真①まるや八丁味噌「味噌蔵」（主に温度保持、耐荷重性）②郡上本染 渡辺染物店「甕場」（主に蓄熱性・耐水性）③たなべたたら里「たたら吹き」の作業場（主に耐火性・耐荷重性）／写真提供：たなべたたら里 ④重要文化財旧内田家住宅（南知多町）の「主屋にわ（土間）」（主に耐汚性・耐水性） 特記以外撮影：ToLoLo studio

## 【構成2】土間をつくる

土間の要となるのは、やはり「土の床」です。その代表となる三和土はどのようにつくられるのか、製作工程をイラストで図解し、道具類は実物資料で紹介します。また、叩くことで土の嵩が約半分になる様子は標本で披露します。久住氏による磨き仕上げの土間床に加え、多彩な土間床見本をバリエーション豊富にご覧いただけます。「土・どろんこ館」の床面も一つの土間床見本として注目していただくため、目線を足元に導く展示構成にしています。



①



②



③



④

写真①三和土をつくる道具類（左から／金鏝、ブラシ、木鏝、たたき鏝、たたき棒※、木槌）所蔵：川口正樹、久住有生（※）②土間床見本「かき落としスポンジ拭き取り」制作・所蔵：久住有生／300×302×H30mm ③土間床見本「あられこぼし」制作・所蔵：西川和也／425×425×H45mm ④土間床見本「土佐漆喰たたき」制作・所蔵：松木憲司／450×450×H100mm 撮影すべて：ToLoLo studio

## ・現代に土間をつなぐ

近年、暮らしのなかにおける土間の寛容さ、柔軟さが見直され、再評価されています。その事例として2件写真で紹介します。

- ・常滑やきもの散歩道の中心部に建つ「常滑の土間」（2024年）  
（設計：手塚貴晴+手塚由比+矢部啓嗣／手塚建築研究所）
- ・築100年の京町屋をリノベーションした「御所西の町家」（2013年）  
（改修設計：森田一弥建築設計事務所）



写真は「常滑の土間」。大きな差し掛け屋根の下に広がるコンクリートの土間は、夜間はガラス戸で仕切られ室内となり、日中は開放しギャラリースペースとして活用されています。写真提供：TEZUKA ARCHITECTS

**■関連イベント****1、公開制作**

公開制作日：2026年4月25日（土）13:00～、4月26日（日）時間未定、5月9日（土）13:00～

※作業時間の目安は数時間です。4/26、5/9は完成次第終了となります。

場所：「土・どろんこ館」企画展示室（共通入館料にて観覧可）

**【内容】**

左官職人・久住有生氏による公開制作を展示室内で行います。4月25日（土）と26日（日）は下地となる三和土の制作を、5月9日（土）は磨き仕上げをご覧ください。

**2、講演会「土間と縁側と式台」**

講師：手塚貴晴+手塚由比（建築家）

開催日時：2026年7月4日（土）14:00 - 15:30

場所：「土・どろんこ館」ホール

参加費：1000円（税込）※企画展関連冊子付／別途、入館チケット必要

定員：40名（先着順）※お申込み方法などの詳細については当館ウェブサイトをご覧ください。

**【内容】**

「常滑の土間」の設計者である手塚貴晴氏・手塚由比氏に、現代における土間の魅力について語っていただきます。この設計に至る幼少期の体感や、土間の周囲に巡らされた式台<sup>\*</sup>の役割を含めた建物の見どころ、また他の作品事例を含め、土間や縁側がもたらす可能性を紹介していただきます。

※土間床から高い床に上がるために設けられた板敷き（踏み台）のこと

**■関連冊子『土間 一つくって、つかって、再発見』**

2026年4月25日発行予定 定価770円（税込）p36全カラー頁

土間の主な機能を伝える、味噌づくり、染め、鋳造、接客などの伝統的な活用例を所有者のインタビューを交え、写真豊富に紹介。三和土のつくり方はイラストで分かりやすく説明するとともに、表情の違いが分かる多彩な土間床見本一覧は見開きで披露します。土間の魅力や奥深さを再発見できる一冊。

\*INAXライブミュージアム内ショップおよびLIXIL公式オンラインショップで購入可。

**■INAXライブミュージアム概要**

所在地：愛知県常滑市奥栄町1-130

TEL：0569-34-8282

開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）休館日：水曜日（祝日は開館）

共通入館料：一般：1000円、学生800円、中高生：500円、小学生：250円/税込

ホームページ：<https://livingculture.lixil.com/ilm/>

Facebook：<https://www.facebook.com/LIXIL.culture>

Instagram：[https://www.instagram.com/lixil\\_inaxmuseums/](https://www.instagram.com/lixil_inaxmuseums/)

やきもの製品のテクノロジー拠点、愛知県常滑市にLIXILが開設する文化施設。

「窯のある広場・資料館」「世界のタイル博物館」「トイレの文化館」「建築陶器のはじまり館」「土・どろんこ館」「陶楽工房」「やきもの工房」の7館からなる“体験・体感型ミュージアム”。土からやきものまで、その歴史や文化、美しさや楽しさを伝えています。土と陶の魅力に触れる体験教室や企画展、ワークショップも開催。

**About LIXIL**

LIXILは、世界中の誰もが願う豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。ものづくりの伝統を礎に、INAX、GROHE、American Standard、TOSTEMをはじめとする数々の製品ブランドを通して、世界をリードする技術やイノベーションで、人びとのより良い暮らしに貢献しています。現在約53,000人の従業員を擁し、世界150カ国以上で事業を



---

## PRESS RELEASE

展開するLIXILは、生活者の視点に立った製品を提供することで、毎日世界で10億人以上の人びとの暮らしを支えています。株式会社LIXIL（証券コード: 5938）は、2025年3月期に1兆5,047億円の連結売上高を計上しています。

LIXILグローバルサイト：<https://www.lixil.com/jp/>